

## 7つの神社

日吉大社の七つの主要な神社は、境内の西側と東側に分かれています。社名や祭神は幾度か変遷してきました。現在の社名と祭神は、1869年頃、神仏分離令により宗教施設が明確化されたことに由来する。それまでは、日吉大社をはじめ、日本各地の宗教施設で神仏習合が行われていた。分離令により、仏教の信仰が禁止され、日吉大社から仏具が撤去・破壊されたため、祭神が再編成され、祭祀のあり方も見直されたのである。

## 7という数字

日吉大社で合計7つであるのは、主要な神社だけではない。本殿の階段はそれぞれ7段であり、本殿前の狛犬はすべて7本の尾を持つ。

天台宗では、日吉大社の7社は北斗七星を構成する7つの星の現われであるとする。北斗七星は、天皇や衆生の寿命を決めると考えられている。

## 西側

日吉大社の最高位である西本宮と、宇佐宮と白山姫宮という小さな神社が2つある。山王祭の最終日に行われる祭典の中心地である。比叡山延暦寺の僧侶が西本宮を訪れ、供物を捧げ、住職が日吉大社の神前で般若心経を読誦する。

## 西本宮

1868年までは大宮神社と呼ばれ、現在も日吉大社で最高位の神社である。本殿の祭神は、東本宮の祭神である大山咋神の後裔で、地上の神々の総帥である大己貴命である。7世紀頃から大和地方（現在の奈良県）で崇拝されてきた大己貴命は、朝廷との結びつきが強く、日本の守護神の一人とされている。

本殿は国宝に指定されている。

## 宇佐宮神社

西本宮のすぐ東にある神社。祭神は西本宮に祀られている大己貴命の妻、田心姫神。大分県の宇佐八幡宮にも同じ田心姫神が祀られており、二人の姉妹と一緒に祀られている(3人ともスサノオとアマテラスの子供である)

本殿の両脇には、不老長寿の象徴とされる橘の木が立っている。3月3日のひな祭りに飾られる雛段には、桜と対になった橘が飾られるのが通例となっている。

## 白山姫神社

宇佐宮の東にある白山姫神社は、ククリヒメを祭神とする神社。ククリヒメは、岐阜県と石川県の県境にある白山の神である。8世紀の日本書紀に、イザナギとイザナミの創造神対決の仲介役として登場する。

## 東側

東側は八王子山頂付近に2社、下に2社の計4社からなる。祀られているのは、穏やかな姿と激しい姿を持つ神々の夫婦である。山頂には荒々しい姿を、下の神社には穏やかな姿をお祀りしている。この二神は夫婦神とされ、四月の山王祭では二神の渡御と、神の子の誕生を祝う。

## 東本宮

日吉大社で2番目に格の高い神社。旧称の二宮と呼ばれることもある。本殿に祀られているのは、大己貴命の祖先である大山咋神の穏やかな姿である。

本殿は国宝に指定されている。

## 牛尾宮神社

八王子山の山頂にある神社。祀られている御祭神は大山咋の荒々しい姿である。大山咋の穏やかな姿は、東本宮に祀られている

## 樹下宮神社

樹下宮は、山に社殿が建てられる以前から神聖視されていた場所にある。本殿は、八王子山麓の湧水を利用して建てられた。八王子山は神が宿る山とされ、山頂付近の岩に八王子神が宿るとされる。

しかし、樹下宮の本殿に祀られているのは八王子ではなく、京都の賀茂神社の総鎮守の娘で、大山咋神の子である賀茂別雷神の母、賀茂玉依姫の優しい姿である。

## 三宮神社

三宮神社は八王子山の山頂付近にある。祭神は賀茂玉依姫の荒々しい姿である。